



曹洞宗新潟県第四宗務所 布教師会会報

発行者 呉 定明

編集所 新潟市秋葉区新町2-5-51 観音寺内

題字 揮毫 (ほうせい) 渡邊宣昭師

ご挨拶



第四宗務所布教師会会長  
正壽寺 呉 定明

信仰の対象とは、キリスト教やイスラム教はそれぞれの神を信じる宗教である。浄土宗は阿弥陀様を信じ、日蓮宗は、大曼荼羅、真言宗は大日如来、禪宗はお釈迦様、その宗教宗派の根本性格を規定するものは、信仰の対象である。宗教を学問として研究するにも信仰の対象が即ち研究の対象である。仏教信仰の対象は何か、それは、三宝である。つまり、帰依三宝である。仏教各宗派は、異なった様相を呈しているが、ただ一つ共通しているものは、三宝信仰である。上座部仏教、八家九宗など三宝を信じる宗教であると定義することができよう。仏教の研究とは結局三宝を研究することになる。

三宝とは、仏、法、僧である。仏とは仏陀の略、覚者と訳す、真実を覚悟した聖者で、具体的に釈迦牟尼仏を指す。法とは達磨の訳、規範規則の義で、具体的に仏陀の説教、その集録である経典を指す。それは、仏教信者の行為の規範となり、生活の規則となる。僧とは僧伽の略、和合衆と訳す。仏弟子、仏教徒達の団体、教団、宗派の呼び名である。この僧伽を組成する法律は仏陀の制定された戒律である。つまり、和合衆は、戒律を厳守しなければならない。「仏は是れ大師なるが故に帰依す、法は良薬なるが故に帰依す、僧は勝友なるが故に帰依す」この世には、私たちが幸せにする三つの宝があるから、この三つの宝を大切にしない。道元禪師は、『正法眼藏歸依三寶』救済の言なり。尊びなさい、安心して我が生命を託し、以って宗教生活の根拠とし、拠所としなさいと強調されています。

お釈迦様は、無常を觀じ、命の大切さを説かれ、命の使い方を示された。自己の求道と衆生の救済、この教えを世界に広めるのが佛教の意義となります。

「あいさし」



第四宗務所所長  
観音寺 阿部 正機

令和四年十二月十一日より新潟県第四宗務所をお預かりいたし、及ばずながら四年間お勤めさせて頂いた皆さま所長の阿部でございます。これよりご指導ご法愛のほどよろしくお願い申し上げます。

振り返りますと、平成二十九年五月二十九日、稲垣宗務所長をはじめとする八十七名の会員のもと、第四宗務所布教師会が発足いたしました。

法事や通夜・葬儀など様々な仏事などの場面で、宗侶の話は檀信徒にとりまして強いニーズを持っています。また、道元禪師の教えに「まだ教えを明らかに理解していないから人のために説いてはいけません」と思っている。全て明らかにするまで待っていては永遠に説くことはできない」とあります。宗侶は皆「曹洞宗布教師」であり、お釈迦さまのみ教えを素直に伝えることが役割であるならば、お釈迦さまに代わってみ教えを説くことに遠慮は要らないのではないのでしょうか。肩に力を入れ過ぎずに法話に向き合いたいとも成長していきたいように。会員各位そのような共通認識を持つての立ち上げだったことを記憶しております。

第四宗務所布教師会が、純粹に佛教を勉強したい、人前で法話を始めたい、と考えている宗侶の拠り所となり、「おろかなる吾は仏にならずとも、衆生を渡す僧の身なれば」という僧侶としての生き方の研鑽の場になることをご期待申し上げます。

また第四宗務所といたしましても、実践佛教に対する熱い思いを形にすることが出来る取り組みを、提案してまいりたいと考えております。

結びに、第四宗務所布教師会会員各位の益々のご活躍を祈念申し上げます。 合掌

第四宗務所布教師会春季研修会



講師 渡邊 宣昭 師

田上 東龍寺住職  
特派 布教師  
令和三年度布教師養成所主任講師

演題 『法話は、行持道環の菩薩行なり』

『行説一如の行履の中から』

一、法事の始めに 僅かな時間の坐禅と共に

「朝起きたら、仏壇に向かって、線香をまつすぐに立てて、合掌をして『ご先祖様、私を生んでくださって有難うございます。一切の生きとし生けるものが幸せでありますように。』とお唱えし、体をまつすぐにして坐りなさい。」

体がまつすぐになると心がまつすぐになり、心がまつすぐになると思ふことがまつすぐになり、思うことがまつすぐになると言うことがまつすぐになり、言うことがまつすぐになると行うことがまつすぐになる。」

二、宗憲 第九条 本宗の教化は全宗門人が行わなければならない。永平七十八世宮崎奕保禅師

三、曹洞宗布教指導叢書「布教伝道の心得」から  
「布教は伝道である、伝道は伝法である、佛祖の法燈をかかげて、人生の進路を照らすのが布教伝道の大本である。」 (第一段)

四、「行事と行持」  
「行事」 事をなし行ふ。恒例の法要の儀式作法、及び三時(朝・昼・晩)の勤行をいう。  
「行持」 行は修行。持は護持・持統。佛祖の大道を修行し、永久に持統して倦怠せぬこと。菩提の道を失わぬように修行して、究竟道にいたつても退転することなく護持する意。  
↓ただ、朝課等は、行持と捉えていいのではないか。行事は、イベントのような打ち上げ花火的なもの。  
五、「行は即ち修行、持は即ち護持。発菩提心を修行し護持する所以なり。」 (『面山述贊』)

江戸時代の学僧・面山瑞方師は、護持という観点を容れて、修行の前提となる発菩提心を修行し護持する重要性を説かれる。

六、「おほよそ菩提心は、いかがして一切衆生をして菩提心をおこさしめ、仏道に引導せましと、ひまなく三業にいとむなり。いたづらに世間の欲楽をあたふるを、利益衆生とするにはあらず。」 『正法眼蔵 発菩提心』  
「発心とは、はじめて自未得度先度他の心をおこすなり。」 『発菩提心』

七、「行持(上)」から、①⑦の七カ所を取り上げたが、そのうちの①②の二カ所を示す。

①行持道環

「佛祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して断絶せず、発心・修行・菩提・涅槃、しばらくの間隙あらず、行持道環なり。」 『行持(上)』

「一発菩提心を百千萬発するなり」 『発無上心』  
「発心は一発にして、さらに発心せず、修行は無量なり、証果は一証なりとのみきくは、仏法をきくにあらず」 『発無上心』

「仏道は初発心のときも仏道なり、成正覚のときも仏道なり、初中後ともに仏道なり。たとへば、万里をゆくものの、一步も千里のうちなり、千歩も千里のうちなり。初一步と千歩とことなれども、千里のおなじぎがごとし。」 『説心説性』

「私は、まだまだ修行中なのです。これからも皆さんと一緒に坐つていきます。」 (朝日寺 永井孝道老師)

「お母さん、自分の体を、一息一息拝むことが仏を拝むことですよ。」 (『日本一短い母への手紙』吉村かおる)

②不會染汚の行持

「このゆえに、みづから強為にあらず、陀の強為にあらず、不會染汚の行持なり。」 『行持(上)』

↓今だ曾て、穢れのない行持である。(染も汚もけがれという意味)  
・ 思惑をもって打算的にやるものではない。健康になりたいとか、利益を求めてやることではない。純粹な行い。これが仏のされてきた修行だからやる。  
・ 染汚には、やめてしまうという意味がある。効果がないとやめてしまう。止めてしまうのは、求めているから。決してやめてしまわないのが行持である。

八、結論

行(坐禅)説(法話) 一如を心掛けて

大慈寰中禅師(七八〇〇八六二)が、「一丈(十尺)を説くことは一尺を言うことに及ばない」と言ったのに対し、道元禅師は、行と説法を須弥山(古代インドで、世界の中心にあると考えられた大きな山)と芥子粒にたとえ、「須弥山に全量あり、芥子に全量あり。行持の大節、これかくの如く」



し。(巨大な須弥山には須弥山としての全功德があり、微少な芥子には芥子としての全功德がある。そのように、行と説法の価値の大小ではなく、功德をそれぞれに評価するべきである。)と言われた。

洞山良价禅師(八〇七〜八六九)が、「行不得底を説取し、説不得底を行取す。(行じきれないところを言葉で説き、説きあかきれないところを行じる)」と示されたのを受けて、道元禅師はさらに、身体でおこなう行が口で説く説法と同じ合い、同様に口で説く説法が身体でおこなう行と同じ合うと言われ、行と説は一体だからこそ、入れ替えることができるのだと示された。

雲居山弘覺大師(八二八〜九〇二)「説時には行路なく、行時には説路なし。」

説く時には行が無く、行ずる時には説くことが無い、説く時は説く、行ずる時には行ずる。これは、説くことと行うことが一体であることを言っている。↓行説一如

・行持の巻を拝読する中で、道元禅師が「釈尊以来受け継ぎ伝えられてきた坐禅を中心とした行」と同じく受け継ぎ伝えられてきた教えを説くこと」がともに大切な行持であるとお示しになっておられる。

・私は、昭和五十九年に住職に就任して以来、坐禅と法話の実践を車の両輪のごとく、僧侶の道を歩む推進力としてきたが、行持道環の菩薩行を行説一如の心掛けを持って、行っていききたいと念じている。

・法話こそ、行説一如の実践行  
言葉で語りながら、その中に行動としての気づきを入れていく。この説法の在り方こそが、行説一如の布教実践と言える。及ばずながら、実践して行こうと念じている。

■以上、限られた紙面の都合上、法話のレジュメとして、纏めました。  
もし、関心をお持ち頂けましたら、フル原稿を東龍寺ホームページに掲載してありますので、下記のQRコードか、直接、ホームページで、ご覧ください。

合掌



### 令和4年度 第四宗務所布教師会 活動報告

期 日	事 業	会 場	内 容	参加人数
5月23日(月) 午後2時開会	総会 春季研修会	宗務所 宝光寺	総会 講師:渡邊宣昭師 (東龍寺住職・特派布教師・ 令和3年度布教師養成所主任講師) 演題:「法話は行持道環の菩薩行なり ～行説一如の行履の中から～」 ※実演布教	寺院 21名
8月23日(火) 午前10時開会	人権講習会 教化指導員 研修会 夏季研修会	宗務所 のぞみの家 福祉会	講師:小柳誠氏 (のぞみの家福祉会、 のぞみふあーむ施設長) 演題:「のぞみふあーむにおける 障がい者の就労支援の取り組み」 現地研修・・・のぞみの家福祉会・萌芽	寺院 21名
10月10日(月) 午後2時開会	秋季研修会	宗務所 宝光寺	講師:高田都耶子氏 (薬師寺管主 故高田好胤師の長女) 演題:「生きて、逝くヒント ～父高田好胤の訓え～」 ※実演布教	寺院 15名 一般 26名
2月25日(土) 午後2時開会	冬季研修会	田上町 交流会館	講師:平井葉子氏 (フリーアナウンサー) 演題:「いのちをみつめる」 ※実演布教	寺院 16名 一般 25名

役員構成

全	全	全	全	全	全	全	事務局員	事務局長	会計	監事	副会長	会長
宝光寺	相円寺	林昌寺	亀壽院	淵龍寺	慈光寺	光浄寺	安龍寺	玉泉寺	善福寺	久昌寺	光源寺	正壽寺
丹羽 直行	宗像 義順	藤田 郁雄	飯村 孝彰 (書記)	永島 昌典 (書記)	佐藤 英樹 (人権主事)	佐藤 宏文 (梅花主事)	齋藤 隆光 (庶務主事)	酒井 賢晃 (教化主事)	細野 徳彰	中野 睦宗	山崎 英史	呉 定明

秋季研修会にて思う



第四宗務所布教師会副会長

光源寺 山崎 英史

昨年10月、研修会にて奈良華師寺管主高田好胤師のご長女・高田都耶子さんのお話を聴く機会に恵まれた。その話の中で特に心に残る言葉をご紹介したいと思う。

昭和24年、好胤師が26歳で華師寺の副住職となつた折、これから自分がどうしていくべきかを考え、今では一般的になつたが戦後の混乱期の中、「仏心の種まきとして修学旅行生へ寺の案内に専念する決意」をされ、また師匠の橋本凝胤師より『最小の効果をの為に最大の努力を惜しんではならない』との教えを貫く。その結果後々に百万巻と言う途方もない数の写経を集め華師寺金堂再建の偉業を果たす。にもかかわらず『出家し仏道を修める沙門に荣誉は不要』の強い信念を忘れることなく人生を全うする。強い信念を持ち続け、教えを貫くことはとても困難であるのはもちろんだが、私たち僧侶が最も大切にしないでほしくない心構えではないかと強く感じた。



講師：高田都耶子氏

実演布教

期日	氏名	対象	演題
5月23日	平野直也師	みなさん	私の話
10月10日	目黒雄生師	一般檀信徒	達磨大師について
	関根大剛師	一般檀信徒	因縁と心
2月25日	阿部正智師	一般檀信徒	愛語は魔法の言葉
	吉原東玄師	一般檀信徒	ご縁は慈悲より生まれる
	乙川文英師	一般檀信徒	理想の布施

編集後記

この度、第二号の広報誌発行に対し皆様に感謝申し上げます。今後も作成に対し皆様からのご意見もお待ちしております。

今年度も研修会、実演布教を聴かせていただき大変勉強になりました。皆様方のご参加もお待ちしております。

藤田 郁雄